









第1日目		「地域学校協働活動を知ろう」	
地域コーディネートA	今なぜ、地域学校協働活動の推進なのか		
講義Ⅰ	岐阜大学 教授 益川 浩一 氏		
<p>地域学校協働活動を推進していく必要性和留意点について学びました。留意点については、①「目的」と「手段」を混同しない。②「あるもの活かし」の発想で、蓄積されてきた活動や地域資源を再度洗い出してみる。③一方通行的な「支援」の関係ではなく、双方向からの働きかけ合いの関係を紡ぐ。④「誰かがやる」を「私がやる」、さらには「私たちがやる」という形で「当事者性」を高めていく。このような、地域と学校がともに育つための連携・協働の視点について学びました。</p>			
地域コーディネートB	わがまちの地域学校協働活動 1		
活動報告Ⅰ	北名古屋市教育委員会 教育指導員 水田 就教 氏		
<p>北名古屋市での事例をもとに、地域学校協働活動についての具体を学びました。北名古屋市では、「学校運営協議会」と、「地域学校協働本部」を一体化し、市内全小中学校で活動が進められています。平成24年度に活動をスタートしてからの10年間に積み重ねられてきた実践が紹介され、その活動イメージを参加者一同、共有することができました。北名古屋市では、学校と地域がそれぞれの立場から理念を共有し、子供たちの学びと育ちが支えられています。</p>			
地域コーディネートB	わがまちの地域学校協働活動 2		
活動報告Ⅱ	津島市 統括的な地域学校協働活動推進員 梶村 明人 氏		
<p>津島市での事例をもとに、地域学校協働活動について理解を深めました。「本音でない」と始まらない、「困り感を率直に伝える」という学校の構えが、地域と連携する際の起点になるという話がありました。また、「地域の人々の力によって、学校が変わってくる」という具体を、津島市の実践から実感を持って理解することができました。さらに、これから地域学校協働活動やコミュニティ・スクールを進めようとしている市町村に対して、津島市12小中学校を統括する梶村先生の御経験をもとにアドバイスをさせていただきました。</p>			
第2日目		「学校を核にした地域づくり、まちづくり」	
地域づくり・まちづくりA	小学校を拠点とした生涯学習のまちづくり		
講義Ⅱ	南粕谷ハウス 事務局長 石井 久子 氏		
<p>知多市における学校と協働した社会教育活動の実例をもとに、学校と協働することの意義を学びました。子供は地域の未来を担う存在であり、学校と協働して子供に関わることは地域を育てる地域づくりに他ならないということを学びました。また、石井先生が行われてきた様々な地域活動の事例をとおして、地域づくりには住民の声を丁寧に拾い上げていくこと、皆が得意なことを持ち寄ることが大切であることが理解できました。</p>			
地域づくり・まちづくりB	地域と学校の協働による人育て		
講義Ⅲ	NPO法人岡崎まち育てセンター・りた 事務局次長 三矢 勝司 氏		
<p>三矢先生が取り組まれてきた岡崎市での様々な市民参加型まちづくりの活動をとおして、①「まちを育てるために人が育つ」社会の全員でその社会の全員を育てる社会教育＝「人育て」のもとになるのは、地域の問題を解決していこうという「まち育て」の観点であるということ、②「人が育てばまちが育つ」「人育て」の典型的な場である学校と協働していくことで地域の問題解決「まち育て」につながるということが理解できました。</p>			

第3日目	「地域学校協働活動推進員の果たす役割と展望」	
事業マネジメント A	瀬戸市の取り組みと多様な主体との連携・協働に関する知識・技術	
講義Ⅳ 活動報告Ⅲ	瀬戸市教育委員会 統括コーディネーター 船坂 礼子 氏 瀬戸市水無瀬中学校ブロック 地域コーディネーター 柳田 美由紀 氏 池戸 智美 氏	
<p>瀬戸市の取組から、地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)の役割について学びました。人を結ぶことで生まれる多様な主体とのつながりが、地域学校協働活動を推進する大きな力になることについて、事例をもとに説明されました。「学校の教育目標を、地域社会がいかにかに共有するか」が大切であり、コーディネーターとして、こうした対話を地域社会の場に生み出していくことが、地域学校協働活動が持続的に行われるために重要であるとの話がありました。</p>		
事業マネジメント B	地域学校協働活動をコーディネートするための地域学校協働活動推進員の役割	
講義Ⅴ	奈良市富雄中学校区地域教育協議会 総合コーディネーター 新谷 明美 氏	
<p>全国的な先進地である奈良市富雄中学校区の事例をもとに、まず、「私たちの地域ではどんな子供を育てたいか」、この共有をしっかりと行うことが、とても大切であるとの話がありました。そして、活動の根底として、①何をするかではなく、何のためにするのか、②何が出来るかではなく、何が必要か、③この活動によって子供たちが何を学ぶのか、④関わる大人が思いを共有しているか、の4点について、しっかりとした協議と共通理解が必要であるとの話がされました。</p>		
第4日目	「これからの地域学校協働活動の在り方」	
連携・協働の展望 A	地域から人づくり。学校からまちづくり。	
講義Ⅵ	NPO法人愛知県西部防災ボランティアコーディネーターネットワークの会 代表 東嶋 とも子 氏	
<p>東嶋先生の取組まれてきた様々な住民主体の地域活動の経験から、地域活動＝まちづくりは、人を育てること＝人づくりとの相関関係で成り立つという視点に立って、①人のつながりを作る大切さ、②学校は人のつながりを作る上で中心になり得るということ、③行政等とも協働して取組を進めるべきこと、④事後検証の大切さ、⑤やれることからとにかく行動することが大切であるということ、を教えてくださいました。</p>		
連携・協働の展望 B	これからの地域学校協働活動の在り方	
講義Ⅶ	愛知教育大学 教授 大村 恵 氏	
<p>様々なデータをもとに、子供が生きづらくなっている現状の説明がありました。生きづらさの根本には様々な問題のために子供が孤立していることがあり、克服のためには子供をひとりこしないことが大切であることが理解できました。地域学校協働活動は、学校と地域がつながることで、子供も地域も育ち、つながる活動であり、子供の生きづらさを越えるために必要な取組であることが分かりました。今後は子供の自ら考える力を信じ、地域課題を解決することで、つながりを生む学力を育むべきだという方向性も示されました。</p>		